

The 2 Chome Times 2022年12月号

NO1のプレミアムストリートをめざして



NO295号

2022年・12月・25日

発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイムス12月号

編集：企画・商業振興部、編集長：井上晶雄 <http://www.centergai2.com> E-mail:centergai2@nifty.com



フェイスブックでも発信しています <https://www.facebook.com/centergai2/>



2丁目目でKOBE Free Wi-Fi ご利用いただけます

★宮崎サイクリングツアー

11月4, 5, 6日の日程で宮崎カーフェリー新船就航記念としてサイクリングツアーが催行され、これ



ウクライナの方々と共に

にKOBE三宮・ひと街創り協議会が協賛しました。4日の18時より神戸三宮フェリーターミナルにて出発式があり、多くの街衆と神戸市役所幹部の方達のお見送りで出発し、翌朝8時過ぎに宮崎港に到着しました。宮崎県経済農協連合会の平島副会長、宮崎カーフェリーの郡司社長、宮崎県観光協会の皆様方の歓迎の中、サイクリングは出発しました。神戸市内に避難をされているウクライナ人6名と留学生の参加もあり合計で70名と多くの参加者となりました。



ウクライナの方々はバスにて鶴戸神社に向かい宮司様のご厚意によりウクライナ平和と少女の七五三の御祈願もして頂きました。サイクリングは宮崎港より西都原の往復で約65km、宮崎の皆様のご案内で、また現地では橋田西都市長がお迎えして下さり、事故も無く全員完走し、翌日無事に神戸港に帰って来ました。個人でも可能ながら、皆さんでのサイクリングとなると楽しさも数倍になりますから、この様な機会が再度あれば皆様もご参加を検討されては如何でしょうか。

★雨森芳洲研修旅行のご報告

先月号で朝鮮通信使の朝鮮担当部補佐役「朝鮮方佐役」として大いに活躍した雨森芳洲（アメモリホウシュウ）の故郷である滋賀県を訪ねる研修旅行のご紹介を致しましたが、KOBE三宮・ひと街創り協議会では12月8日、彦根・近江八幡へ行って参りました。最初に訪れた雨森芳洲のふるさと近江・高月町では、100戸程度の地元の皆様が出し合い、朝鮮通信使との外交で重要な役割を果たされた地元出身者の業績を全国に発信すべく拠点施設「雨森芳洲庵」を設けられたとのこと。当日、ユーモアを交えながら分かりやすく御説明頂いた平井茂彦元館長が中心となり熱心に活動されており、施設は現在もまちづくり活動に加え、東アジアの



雨森芳洲庵

交流拠点としても地元で大いに活用されておられるようでした。また、近隣にある渡岸寺観音堂（向源寺）での十一面観音では国内で一番美しいとも言われる国宝十一面観世音菩薩立像をはじめ大変貴重な仏像を拝観させて頂きました。そして朝鮮通信使の一行が宿泊された彦根・宗安寺、近江八幡・本願寺八幡別院を訪ね、それぞれで残された建物、資料をもとに説明を伺いましたが、中でも掛け軸で残された文章には故郷を懐かしむ想いが書き綴られており、当時通信使の方々にとりまして異国での大変長い旅路であると感じておられたことが分かり印象的でした。当日はあいにく小雨が降ったり止んだりの空模様でしたが、先の平井元館長のお話ではこのあたりでも「弁当忘れても傘を忘れるな」と言われるお天気の変わりやすい地域とのこと。この研修旅行に参加し、朝鮮通信使についてさらに理解が深まる貴重な体験をさせて頂きました。ただ本で知るのと違って、実際に現地に出かけて先人が感じたであろう思いまで想像できるのは格別です。今後の研修旅行も深みのあるものになりそうで、大いに楽しみです。

★ナイトミュージアムへの嬉しいリアクションがありました！

嬉しいお電話での問い合わせが一般の通行人の方から2丁目の事務局にありました。11月21日にお問



い合わせのお電話が事務局にあり、内容は「ナイトミュージアムの作品、照明と音楽について」でしたが、ご紹介します。「会社からの帰りが23時頃になることが時々あり、センター街2丁目には照明があるので、こちらを歩いて帰ります。その際、ストリートミュージアムの作品・照明・音楽で仕事の疲れが癒されます。美術作品の記載がありますが、音楽はどなたの作品でしょうか？」というものでした。事務局が対応され、2丁目の藤井理事に確認のうえで、「

天宮 遥さんの曲で、通常のライトアップの時はアルバム“Life is Beautiful”に収録されている“Ever Green”という曲であること、また演出の際に使っているのは彼女のオリジナル曲“月の回廊”で、これはナイトミュージアムだけで聴ける曲であること」をお伝えしました。お問い合わせの方は丁寧に礼を述べられ、「アート作品と音楽が一体となって自分と一緒に包み込まれるイメージです。スマホで作品を写真に撮ったり、また音楽を録音したりしています。明るいので、楽しみながら安心して歩いて帰れます。これからも続けてください」と仰って下さいました。この様に2丁目の進めている「夜間でも安心して御通行頂ける街」や「こだわりのあるアート」に関して直に皆様のお声が聴けて嬉しい限りです。



天宮 遥さん

※天宮 遥： 音楽家 神戸生まれ。4歳から音楽を始め、楽しくも厳しい音楽教育を受けて現在に至る。ピアニスト、作曲家、シンガーソングライター更にはラジオパーソナリティーとしてジャンルを越えた音楽活動を展開中。

★新たな形での新年会について

コロナ禍の中、従来の形での新年会はできませんでしたが、来年1月10日（火）12時より新しい形での新年会が行われます。従来は飲食店を利用していましたが、今回はサンセンタープラザ西館の9号会議室を昼間に利用し、飲み物や食料も2丁目の理事が自分達で足を運び、手配するという試みです。従来型の飲食店での新年会ではありませんので、昼食を食べに寄る感じでもお立ち寄りが可能です。普段、「新年会は敷居が高い」と感じられておられる組合員の方々でも今回は気楽に過ごせる場となりますので、スタッフ同士でどうぞご参加ください。

★編集後記

沖縄本土復帰50周年記念と兵庫・沖縄友愛提携50周年を記念し、尼崎芸術文化協会第39回舞台公演「望郷～ひとりひとりの沖縄～」が11月に尼崎アルカイクホールで開催されました。美しい沖縄の衣装と伝統的な沖縄の音楽と踊りが繰り広げられ、大変見たいにも美しく華やかでありました。もちろん沖縄戦の暗い影も同時に感じられますが、それに関して落語家の3代目 桂 春蝶さんが「沖縄への想い」と題して、思わず聞き入ってしまう沖縄戦を生き延びたある女性のお話をされていました。激しい沖縄戦の最中、もう自決するしかないと思いつき、たまたま近くにいた日本兵から手榴弾をもらい、何人かで集まってその手榴弾を爆破して死のうとしました。爆破する瞬間、足や腕を失くすといった中途半端に生き残るのではなく、確実に死ぬために全員が競ってその手榴弾の上に覆いかぶさるのだそうです。しかし、結果的に手榴弾は不発で助かり、また別の日本兵の手榴弾をもらい、同じことをしたが、やはり不発、さらにもう一度同じことをしたそうです。結局、3回とも手榴弾は爆発せず、結果的に生き残ったのだそうです。その時にこの女性は「こんなのでアメリカに勝てるはずがない」と思ったそうです。何とも凄まじい内容でしたが、我々はこういった壮絶な事実を忘れてはいけないと思います。今年もタイムズにお付き合い頂き誠にありがとうございました。来年もよろしくお願ひいたします。良いお年をお迎えください。

美しい街 共に歩む ビルメンテナンス

つるかめ管財株式会社 078-371-3589

